

## ニューズレターへの期待

伊藤 克敏

今年度より所員間の情報交換の場としてニューズレターが発行されることになった。研究所というのはいわば、一つの組織体を成すものであり、それを作り上げている構成員の間には常に有機的な交流関係が維持されなければ、有効な機能を果たすことができない。

従来、当センターの執行機関と所員の関係は余り有機的ではなかったように思われる。所員は図書、視聴覚教材の申し込みと、年一回の研究紀要の受領でセンターと結びついているだけで極めて受動的であった。所員のセンターの能動的な働きかけや、所員間の円滑なコミュニケーションへの願いが、ニューズレター発行の動機になっている。

当センターは全学的な語学教育の推進に重点を置いていることは勿論であるが、狭義の語学教育に縛られることなく、広く日常生活や精神生活を豊かにするような「ことば」の研究、つまり、ことばと文学、社会、心理、文化、思想といった事

柄にも研究範囲を広げて行く方向を志向している。

語学教育は単に教授言語の音声や文法の技能(skills)の向上のみに限定されるべきでなく、その言語の背景になっている社会、文化、民族心理等といったものをも含めるべきであり、語学教師は常に技能面だけでなく、広い背景の知識を身につける必要がある。そういった意味でも文化人類学、社会学、哲学、心理学等の分野の方々の当センターへの貢献を期待すべきであろう。言語の関連諸科学の研究者の参加によって人間教育としての語学教育が助長されることを強く望むものである。

当ニューズレターが上に述べた広い分野の情報、意見交換の場として充分活用され、運営委員会と所員、更に所員間の有機的な関係を密にし、それによってセンターの活動が活性化されることを切望する次第である。

### ★ 新刊書紹介 ★

David Crystal, with cartoons by McLachlan,  
**Rediscover Grammar with David Crystal**,  
Longman, 1988, Pp. 2-223.

伝統(古い)文法はギリシャ時代に溯って約二千年の間、学問を志す者たちを魅了してきたのであるが、近年になって文法はあまり人気がなく、その学習価値が不確かになって、多くの中学・高等学校などでは積極的に教えられなくなってきた。こういった教育状況の中で、もう一度《文法再発見》を求める人々と、過去の忌まわしい記憶から立戻れない人々がいる。こうした文法という

名に対する偏見を拭い去り、文法を人間のことばの規則という観点から文法の学習を考えていこうとする著者の姿勢が、この本から感じられる。

この文法書は二つの方法で使用できる。一つは、一般の書物と同じように初めから終わりまでを読み通すことにより日常無意識に使う「ことば」の中の規則とその例外を把握するために、もう一つは、手軽に辞書として用いることができる。家庭や学校等で、どのような方がいい方が正しいのか、又どのような文体が好ましいのかといった問題がある場合に、この本の実例を参考できるように整理されている。ここで扱われている用法は、口語、文語、形式的な表現、あるいは日常的な表現、方

言、文学上のことばそして文体について幅広く取り上げられている。

「ことば」は、すべて規則通りには分析できるものでもないし、又「ことば」の規則そのものは完全なものではないという著者の主張を踏えて、例外あるいは、文法的分析が難しい用例については Caution という項目を定めて簡単に説明を加えている。この Caution の部分は赤色で目立つように工夫し、大層役に立つ情報を整理している。例えば、他動詞、自動詞の箇所では、say, mean が通常他動詞であるが、熟語的に用いられるような場合、‘I say’, とか、‘I mean—really!’ といった表現となると、これらの動詞は自動詞となり、又

逆に go という動詞では Will the day go the course? という文では go は他動詞となるという説明を加えることによって、他動詞、自動詞の区別が必ずしも一定でないという事実を示している。全体の構成方法は、各項目で重要と思われる情報を太字で印刷し、更に赤黒の色の区別によって説明文と例文を見やすくし、所々に漫画のさし絵を入れて文法学習に楽しいイメージを与えようとしている著者の努力がうかがわれる。

学生、教師、一般向けのハンディーな文法書である。

古岩井嘉蓉子

## 日本児童英語教育学会(JASTEC) 第9回全国大会参会記

6月19日(日)大阪の摂南大学で上記の学会が開催され、「児童英語教育の意義を問い直す」と題するシンポジウムにパネリストとして招待されたので参加した。本学会は『0歳からの英語教育』という著書で知られている五島忠久氏(大阪大学名誉教授)を中心に結成されたもので、東京、名古屋、大阪に事務局を持ち、全国各地に約300名の会員を擁している。関東地区、中部地区、関西地区で各々、地区大会を開く一方、東京と大阪で交互に年一回、全国大会を開催している。

関東と関西で各々、プロジェクトチームを組み、関西では中学入学以前に英語教育を受けた者と受けなかった者との、英語の4技能面の能力差を追跡調査している。その結果、中学では余り差はないが、高校に入ってから前者の優位差が大きくなっていることが明らかにされている。今年度の大会で writing の追跡調査報告が行われた。一方、関東地区では今年度より中学一年生を対象に、児童英語教育経験者(Ex)と非経験者(Non-Ex)の英語学習に対する態度のアンケート調査を行っている。本年度の大会ではその中間報告が行われたのであるが、全般的にいえることは、Non-Exに較べて Ex の方が中学での英語学習に対する態度は積極的で、児童英語教育の効果がかなりはっきり表われている。又、外国人に対する態度や、

### 伊藤 克敏

将来英語を使う職業につきたいかどうかの質問に対して、Exの方が前向きで意欲的な態度が看取できた。

午前中前半のプロジェクトチーム研究報告に続いて、2つの研究発表が行われた。一つは中山兼芳氏(常葉学園大)による「国際人の養成を目指した早期英語教育」で、早期英語教育では単に中学の英語を先取的に教えるだけではなく、「違いを認め」異質なものを受け入れ好意的に理解しようとする、国際人としての基本的態度の養成が肝要である、との見解を述べた。二つ目は、中島和子氏(同志社女子大)による「幼、小、中、高、大の英語教育—学ぶ喜び、教える喜び」という発表で、児童期に英語を習わなかった大学生は全般的に発音が劣悪であることを指摘し、現在の中、高における「文法中心」の英語学習からコミュニケーション中心のそれへの切換えの必要性を訴えた。

午後は「児童英語教育の意義を問いなおす」というタイトルでシンポジウムが行われた。先ず、末延岑生氏(神戸商科大)は英語教育全体における児童英語教育の位置づけの観点から発言し、IQ 140以下の子どもは外国語習得に向いていない、といった波多野完治氏(発達心理学)の論を反駁して、人間は生得的に言語習得能力を備えて

いるのであり、全ての子どもが英語を習得する能力があり、それを児童期に活性化する英語教育が望まれる、とした。筆者は人間教育の面から発言し、心の柔かいうちにことばを通して異文化を体験させ、その結果、異質な文化に対する寛容な態度を養成するには児童英語教育こそ大切であることを強調した。更にカナダ、米国、オーストラリアにおける児童二言語教育の実態調査から、単一語児より二言語児の方が抽象的思考に優れており、母語に対するより深い認識を持っていることを指摘した。野上三枝子（日本橋女学館短大）は、技能習得の面から児童期こそ自然な言語習得能力

によって英語を創造的に習得することができる、とした。最後に中山行弘氏（摂南大）は国際理解教育の観点から、児童英語教育を再検討した。英米への過度の言語文化的同化を避け、多国籍言語としての英語へのアプローチを旨すべきであるとした。

長年、公立小学校からの英語教育の必要性を訴え、自ら静岡県公立小学校で課外英語授業を担当している大棟猛氏がフロアーから「日本の英語教育は小学校から始められるべきで、抜本的改革が必要である」と発言し、それをめぐって白熱した議論が交わされた。

### ★学会予告★

昭和63年度（第28回）LLA 全国研究大会が名古屋市郊外にある中部大学において7月31日（日）、8月1日（月）の両日、開催されます。今年度の中心テーマは外国語教育における国際化と情報化で、異文化と外国語教育、教育機器と言語教育を中心に研究発表、シンポジウムが行なわれ

ます。海外からの著名な学者による講演も見のがせません。その一人は南カルフォルニア大教授、君塚寿満子先生で「日本の英語教育にもの申す」、という題目の講演が予定されています。もう一人は、ロンドン大教授の Dr. John Wells（音声学者）で音声と言語習得についての講演が期待されています。

石黒 敏明

## 日本英語の所在

正 田 三 良

パソコン通信を始めて半年を過ぎた。動機はさまざまだが、日本人が書く英語の実態を知りたいというのもその一つだった。会員数1万を超えるネットワークには英語のボードがあるし、各地にあるアメリカ人を主とするローカルネットでも、日本人がメッセージを書いている。時には白熱の議論が交わされることもあって、つい最近私が提起した「環境破壊と科学」というテーマをめぐって日本人、アメリカ人が入り交じって激しく応酬し、私の敗北に終わったところだ。それはそれとして、そこに見る日本人の英語を何に役立てようとするのかと言えば、日本人式英語への道を探る資料にしたいのだ。

日本人は日本式英語でよいという主張は、かなり昔からあったようだ。Japlishをはじめとして、それは、Japalish、Janglish などさまざまに命名されている。私自身も若い頃からこの種の主張を

してきたし、最近では教室でも盛んに口にするようになっている。観念的には、それが正しいと私には思える。だが、ひと度具体的な姿をイメージしようとする、その一部さえも見えてきはしない。確かに pidgin English その他各地の非英米英語の存在を指摘して日本英語があり得ると主張するのは正しい。だが、事はそれほど簡単ではない。きわめて重大な違いがあるからだ。例えば pidgin は実際に使われる中から自然に育ってきたものだ。日本にはその現実の英語使用状況が、少なくとも最近まではなかったのだ。日本英語は「できる」のではなく、「つくる」ものとしてしか存在しないわけだ。そこではエスペラントの創造に似た人工的加工の側面が濃厚にならざるを得ない。英語を使用する必要性が全国的に、しかもかなり日常的に生まれることが当面ないとすれば、どうしてもそうなる。

しかし、日本英語の誕生が望ましいことは疑いないだろう。私は、20年余の英語教育経験で、英語が使える日本人をいったい何人生み出したのだろうか。同じことをこのまま続けてよいのか。教授法の適不適もあるだろう。教育条件の如何も問題だろう。だが、それらにいくらの進歩があったとしても、飛躍的に事態が改善されるとは思えない。問題はむしろ、英米の教育ある人々の英語を金科玉条として、それに一步でも近づくことを理想としてきた点にあるのではないか。これでは、天才

以外に満点は望めない。到達不能の目標を掲げていては、挫折感、劣等感を煽るだけに終わる。だからといって、モデルのレベルを下げようというのではない。モデルの種類を変えるのだ。それは日本人にとって学び易く、国際的に通用可能な英語だ。それを日本英語と呼ぶとして、そのモデルは現実に日本人が使っている英語にしかない。その英語がどのようなものか現場で観察することからしか事は始まらない。手近な現場の一つがパソコン通信と考えたのだった。

### ★新着案内★

#### ☆視聴覚資料

#### ビデオテープ

El. Norte  
Marianela  
Antonieta  
Providence  
The Bostonians  
星の王子さま（ポニー発行）  
El. Nido

#### カセットテープ

TOEIC 完全学習プログラム  
日本を語る  
Super ELMER  
英会話発信ボキャブラリー・500  
中国語放送・聞きとり実践教室  
Strategies in Listening  
生活情報の英語  
やさしく話す韓国語  
Listening Plus  
英検一級一次試験対策カセット  
英検一級二次試験対策カセット  
旅行英会話ブック  
広東語四週間  
American Streamline: Departure  
American Streamline: Connections  
American Streamline: Destinations  
Streamline English: Directions  
Study Listening

#### 瑜伽燐口

EJ の生きた表現集  
FEN Guide Digest Special  
Hiroko's Japanese Lesson  
エンジョイ中国語  
中国の雨  
中国語へのパスポート  
中国文化基礎知識  
中国とのふれあい  
文法をふまえた中国語テキスト  
大学中国語  
簡明・実用初級中国語  
例文中心・初級中国語

#### 視聴覚資料

#### 継続資料（ビデオテープ）

España al Dia  
France - TV Magazine

#### 継続資料（カセットテープ）

日本語ジャーナル  
The English Journal  
FEN ガイド  
時事英語研究  
Kiddy Cat  
English Express  
Aktuelle Nachrichten in Deutschen  
Rundfunk  
Media - France

#### ☆図書

現代人のための英語の常識百科  
資料 日本英学史 I・上 英学こ  
とはじめ  
Kleiner Deutscher Sprachatlas. BD. I  
Teil. 2  
Dictionnaire de l'ancien français  
Lexique de l'ancien français  
The Theory of Communicative Action.  
vol. 1, 2.  
The Facts on File Dictionary of  
Jroublesome Words.  
The seminar of Jacques Lacan vol. 1,  
2  
語言研究論叢 4  
漢語及写作  
漢語反義詞詞典  
写作成語類典  
電子技術日語外来語詞典  
現代漢語複句  
総合閩南台湾語基本字典初稿(上・下)  
漢語口語900句(漢日対照)  
学生実用小詞典(山東教育)  
黄侃声韻学未刊稿(上・下)  
辞章学概論  
語文学習百科知識詞典  
語言学論叢(14)  
修辞学論文集(3, 4)  
古代漢語自学読本  
現代中国語文法総覧(上)  
中国成語大辞典